



# RSウイルス 感染症※について 知っていますか？

※RSウイルスにより引き起こされる感染症

RSウイルスは世界中に分布しており、乳幼児から大人まで誰もが感染するウイルスです<sup>1)</sup>。

乳幼児では、2歳になるまでにほぼ100%がRSウイルスに感染するといわれています。1歳未満で初めて感染したときは、重症化する場合があります<sup>2)</sup>。

RSウイルスは年間で13～18万人の方が罹患していてその中でも3万人の方が入院管理となっています。  
そのうち2～6カ月の乳児が41%になります。



ご質問等は院長まで！！

パンフレットは  
受付左下の棚の中  
にあります。  
ご自由  
にお取りください



RSウイルスワクチン  
当院でも接種出来ます。

詳しくは医師へご相談下さい。

1回 ¥30,000円(税込)



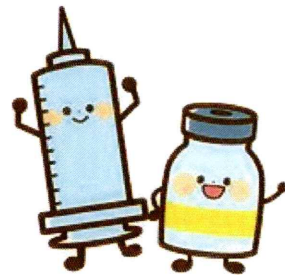
RSウイルスは

重篤な症状を引き起こす呼吸器感染症です。

28週～36週の妊婦さんに接種することで 生まれてくる

赤ちゃんが6か月間免疫を維持します。その後は小児科に

バトンタッチします。



# 目次

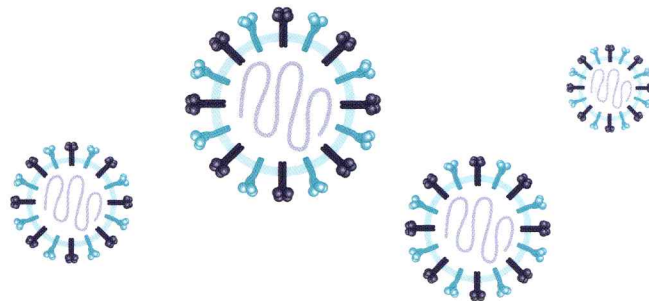
RSウイルス感染症ってどんな病気？	3
RSウイルス感染症の症状と治療	4
RSウイルス感染症の特徴	5
RSウイルス感染による入院の割合	6
RSウイルス感染症の対策	8
RSウイルス感染症の最新の情報について	10
RSウイルスのWebサイトのご案内	11

# RSウイルス感染症って どんな病気？

RSウイルス感染症はRSウイルスに感染することによって起きる呼吸器の感染症です。患者さんにより、軽い風邪のような症状から重い肺炎の症状まで様々です<sup>1)</sup>。

RSウイルス感染症は、新生児や乳幼児においてはウイルス性の風邪の主な原因のひとつであり、ほぼすべての新生児・乳幼児が2歳までに感染するとされています<sup>2)</sup>。

年齢を問わず何度も感染するため、生まれたばかりの赤ちゃんから高齢者まで、幅広い年齢層で感染するといわれています<sup>1,2)</sup>。



1) Glezen WP et al.: Am J Dis Child 140 (6): 543, 1986

2) 国立感染症研究所: 病原微生物検出情報 35 (6): 5, 2014

## RSウイルス感染症の症状と治療

### 症状

RSウイルスは、4～5日の潜伏期間（症状のない期間）の後、発熱、鼻水などの上気道炎の症状がみられるようになります<sup>1)</sup>。

### 治療

RSウイルス感染症に対する治療法は確立されていません。そのため、症状をやわらげる対症療法や呼吸を助ける治療が主体です<sup>2)</sup>。呼吸困難が強いなどの重症の患者さんは入院し、酸素投与や人工呼吸器で対応します<sup>3)</sup>。



## RSウイルス感染症の特徴

小さなお子さん（新生児や乳幼児）が感染すると重症化する可能性があります。

約70%の乳幼児では、上気道炎の症状が数日続いた後、快方に向かうと報告されています<sup>4)</sup>。30%の乳幼児ではその後、細気管支炎や肺炎などの下気道炎を引き起こして重症化し、強いせきやゼーゼー、ヒューヒューといった喘鳴（ぜんめい）、呼吸困難などの症状がみられるようになります<sup>1)</sup>。

### <特に注意が必要な患者さん>

- はじめてRSウイルスに感染した赤ちゃん<sup>5)</sup>
- 小さく生まれた赤ちゃん（早産・低出生体重児）や、心臓や肺の基礎疾患、免疫不全、ダウン症のあるお子さん<sup>5)</sup>

1) 堤裕幸: ウイルス 55 (1); 77, 2005

2) 国立感染症研究所: 病原微生物検出情報 35 (6): 5, 2014

3) 国立感染症研究所: <https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/317-rs-intro.html> (2024年3月時点)

4) 堤裕幸 他: 小児内科 49 (11), 1625, 2017

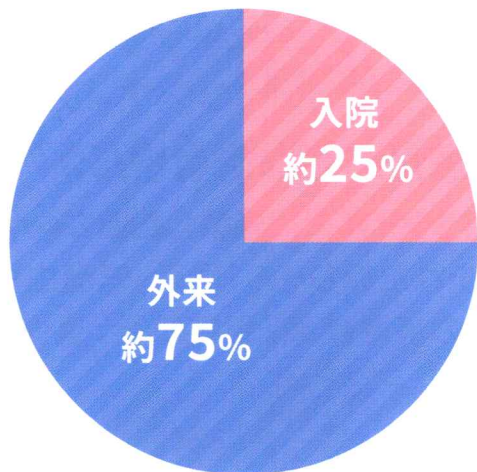
5) Kobayashi Y et al.: Pediatr Int 64 (1): e14957, 2022

# RSウイルス感染による 入院の割合

RSウイルス感染で医療機関を受診した2歳未満児のうち、約25%が入院し、そのうち、6ヵ月未満が約40%を占めていました<sup>1)</sup>。さらに、人工呼吸器を使用した割合は、8.1%でした<sup>1)</sup>。

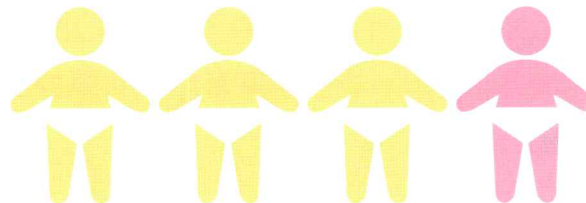
入院した2歳未満児のうち、約90%にRSウイルス感染症のリスク因子(早産児、気管支肺異形成症、ダウン症、先天性心疾患、免疫不全)はありませんでした<sup>1)</sup>。

RSウイルスに感染した2歳未満児 の入院／外来の割合(2018年)



文献1)より作成

入院は  
約4人に1人



N=8509例

日本医療データセンター社のデータベースに登録されていた患者のデータのうち、2017年又は2018年にRSウイルスと診断された2歳未満の患者のデータをもとに、入院治療や人工呼吸器使用の有無、リスク因子の有無等を集計

1) Kobayashi Y et al.: *Pediatr Int* 64 (1): e14957, 2022

# RSウイルス感染症の対策

- RSウイルスは、飛沫感染（ひまつかんせん）と、接触感染（せつしょくかんせん）の2つの方法で感染します<sup>1)</sup>。



- 基本的な感染対策は、手洗いや手指消毒、換気、マスクの着用です。



## RSウイルス感染症のためにできること

- 赤ちゃんが生まれる前にできること

妊娠中の方が接種し、お腹にいる赤ちゃんに胎盤を通じて抗体を移行することで、生後の赤ちゃんをRSウイルスから守るためのRSウイルスワクチンがあります。



- 赤ちゃんが生まれた後にできること

赤ちゃんに直接抗体を投与し、RSウイルスのはたらきをおさえる注射薬があります。



くわしくは医師にご相談ください。



1) 厚生労働省: RSウイルス感染症Q&A (令和6年1月15日改訂)

([https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/rs\\_qa.html](https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/rs_qa.html)) (2024年5月時点)

# RSウイルス感染症の 最新の情報について

RSウイルス感染症は1年を通じて感染がみられますが、流行する時期があります。RSウイルス感染症にかかると重症化する場合があるため、その流行を把握することが重要です<sup>1)</sup>。

本邦では、全国約3,000の医療機関から各地域の保健所へ、RSウイルス感染症と診断された患者数が週単位で報告されており、医療機関からの報告をもとにした全国レベルの集計結果を、国立感染症研究所のHPで確認することができます。「過去10年間との比較グラフ(週報)」のページ(<https://www.niid.go.jp/niid/ja/10/weeklygraph.html>)にて、「RSウイルス感染症 RSV Infection」を選択すると、全国報告数の集計結果をご覧いただけます。

また、流行の状況は地域によって異なりますので、お住まいの地域の自治体のHPでご確認ください。

以下のサイトでもRSウイルス感染症についての情報を閲覧することができます。

1) 国立感染症研究所: 病原微生物検出情報 39(12): 1, 2018

## RSウイルス感染症の関連サイト

- **厚生労働省RSウイルス感染症Q&A**  
([https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/rs\\_qa.html](https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/rs_qa.html))
- **国立成育医療センター RSウイルス感染症にご注意ください!!**  
(<https://www.ncchd.go.jp/news/2022/200727.html>)

# RSウイルスの Webサイトのご案内



RSウイルスやRSウイルス感染症について学べるWebサイトもご用意しております。



RSウイルス感染症の概要や、症状、治療、日常における注意点などについて解説しています。ぜひご覧ください。

URL <https://www.rs-virus.jp>

